

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
国語表現 Writing Japanese		1年・2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義・演習	選択	(教養実践)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
国語の表現力をさらに高めたいと考えている人には「国語基礎教養」の受講が望まれる。				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
就職試験への対策を考えている人は複数の「基礎教養」科目の受講が望まれる。				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
佐藤 康弘		必要に応じ、非常勤講師室にて実施。		授業中に指示します
授業の概要				
◎「読む・聞く・書く・話す」活動を柱に、授業を展開する。教材は、テキストの他に、書籍、新聞等からも引用する。 ①自己理解を深めつつ、表現する。⇒自分の言葉と出会う。 ②自他の関係性に対する理解を深める。 ③毎時間、考えたこと、議論したこと等を、文章でまとめる。また、発表する。※学生の意見を教材とすることがある。 ④新聞等の社会を反映する記事を教材に、授業を展開する。				
授業の目標				
◎「関係性を学ぶ」こと。 ①自己の傾向に気づき、それを基礎に、表現する。 ②多様な意見に対する「傾聴」の姿勢を身につける。 ③他者とのより効果的な関係を築くための表現力を身につける契機とする。				
授業の方法				
この授業の方法は、以下の3項目となる。 ①講義が中心になるが、一部に演習形式(自己PR・ディスカッション等)を含む。 ②毎時間プリントによる学習であり、授業の最後に提出する。 ③プリントの最後に「本日の授業で考えたこと」を記入して学習内容のポイントを確認する。質問も同時に記入する。				
学習の成果(学習成果)				
①自己の傾向に気づき、それを基礎に、表現することができる。 ②多様な意見に対する「傾聴」の姿勢を身につけることができる。 ③他者とのより効果的な関係を築くための表現力を身につける契機とすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	講義ガイダンス(勉強の心構え・講義計画・プリント・課題・成績評価等について) 自分の傾向を知ろう-喜怒哀楽の感情の現れ方-/「私」はどうなりたいか、作文する。			
第2回目	自己評価(セルフ・エスティーム)と人生について考える。-自分の経験から文章化する。- テキスト第一章「自分を磨こう」			
第3回目	自己表現:言葉の力について考える。他者を喜ばせた経験、悲しませた経験等から。文章化する。/「自分の言葉」について考える。			
第4回目	自己表現:他人とのコミュニケーション基礎-「私」の課題に気づく。その対応について、作文する。			
第5回目	自己表現:対人的コミュニケーションのよくある誤り※第4回のまとめ。/+「成功」について考える。			
第6回目	自己表現「よく見る」:自分以外の「人・物・事・」に対して注意深くなる。※「GDV」「セカンドステップ」等活用。⇒イラストと文章で表現する。			

第7回目	関係性を学ぶ：「私」の中の「さまざまな私」について考え、文章化する。	
第8回目	関係性を学ぶ：「私」と家族・地域社会・国・世界（グローバル社会）-「私を取り巻く社会」は私とどのように関わっているだろうか、考え、文章化する。	
第9回目	関係性を学ぶ：「正論テロ（日経新聞）」について議論し、文章化する。※SNS等が招く社会、マスコミの課題等を参考にする。	
第10回目	小論文を書く：私はこう生きたい-成功をテーマとして- ※「私」にとっての「成功」とは何か、明確に定義して文章を書く。	
第11回目	小論文を書く：グローバル社会をテーマに、自分の考えをまとめる。-言葉を定義して文章を書く- ※特に人権に係る国際的な法令等についても視野を広げて調べ、考えながら。参考資料：緒方貞子「私の仕事」	
第12回目	小論文を書く：自分が選んだ報道、雑誌等の記事から、自分の考えをまとめる。※「文章完成法」を活用し、自分の視点を明らかにして。	
第13回目	小論文を書く：「私と仕事」	
第14回目	私	
第15回目	テキスト巻末ワークシートの確認 漢字・国語常識	演習→「賛否両論」の練習 昔話の世界「人魚姫」
事前・事後学習	事前学習（テキストを通読し、疑問点を整理しておく）・事後学習（返却プリントを毎時間確認する）	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	45%	毎時間配布のプリントを授業後に回収。毎時間ごとに「読む・聞く・書く・話す+レポート」の各領域を4点満点で評価し、その平均点を本時の授業評価とする。評価：優4/良3/可2/不可1
レポート	15%	プリントのレポート領域（文章表現）の表現力により評価する。評価基準は上記同。（言葉の定義/誤字脱字/文脈/論旨の明確さ等）
調査報告書		
小テスト		
試験	40%	16週目に実施。大テーマによる論述問題(2問)で10点、授業全体から短答式の設問(15問)で30点の試験。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：『就職に役立つ日本語表現法』（田上貞一郎著・萌文書林・1600円＋税） 参考書・参考資料：授業担当者より適宜紹介するが購入の必要はない。		
履修上の留意点・ルール		
毎回授業でプリントを配布し回収して添削・評価を行うので、欠席した場合は「オフィスアワー」を利用して補講を受ける。		